

そして…行政職にお伝えしたい5つのポイント

横須賀市における 在宅医療・介護連携推進の取り組み —最期まで住み慣れた場所で—

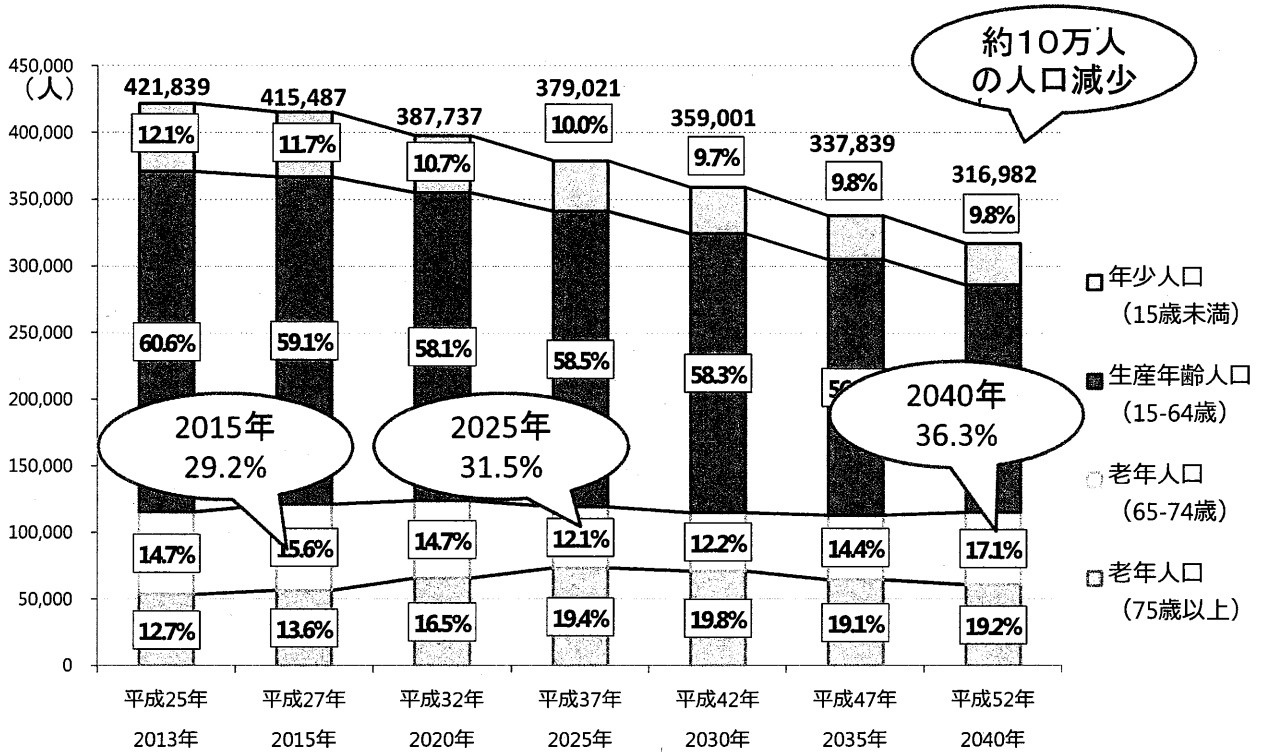


横須賀市健康部地域医療推進課長
川名理恵子

横須賀市基本情報

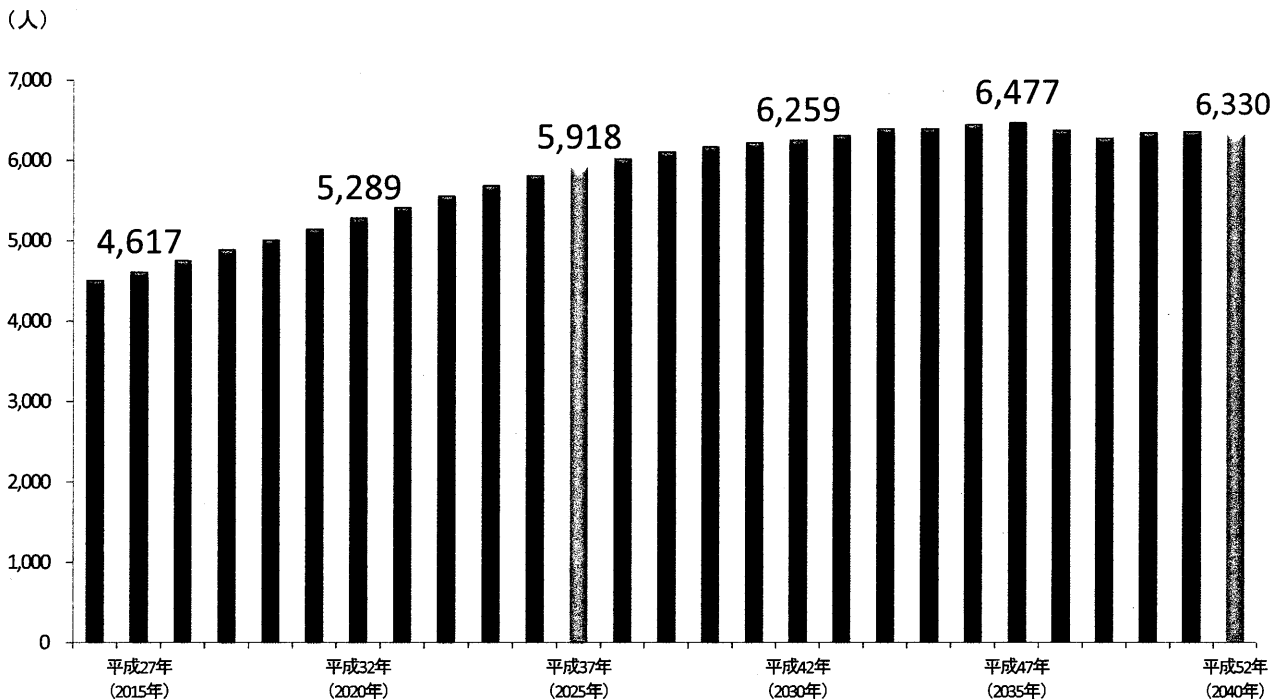
- ・ 面積 約100km²
- ・ 人口 約41万人(中核市、保健所設置市)
- ・ 高齢化率 約30%(平成28年4月)
- ・ 要支援・要介護認定者数 20,655人(平成28年3月)
- ・ 年間死亡者数 4,592人(平成26年)
- ・ 市内の医療・介護資源 (H28.4月現在)
 - 病院 11(一般病床2,410・療養病床438・その他372)
※うち在宅療養後方支援病院3、地域包括ケア入院料等算定病院2
 - 在宅療養支援診療所 43(取り組み前は35)
 - 地域包括支援センター 13
 - 居宅介護支援事業所 126
 - 訪問介護事業所 96
 - 訪問看護ステーション 25
 - デイサービス 125
 - 介護老人保健施設 9(定員 992)
 - 特別養護老人ホーム 20(定員 2,140)
 - グループホーム 46(定員 664)

横須賀市の人口の将来推計



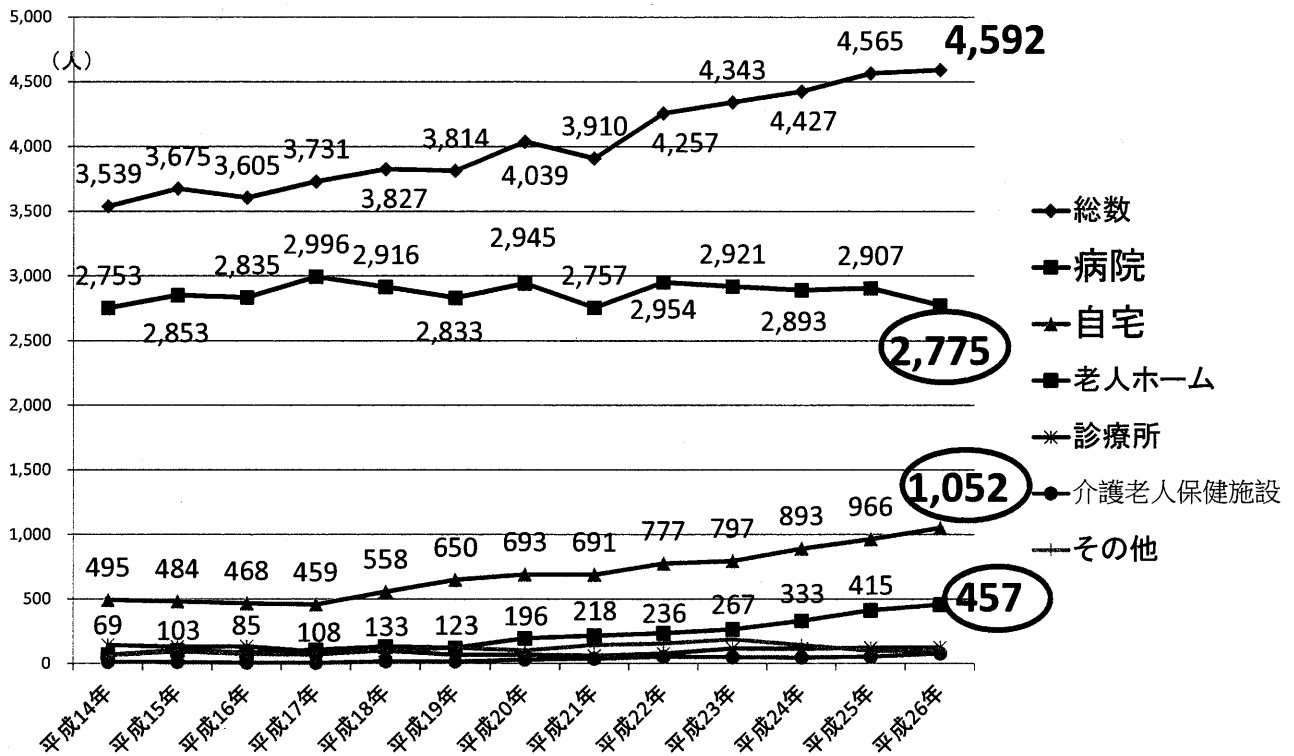
(横須賀市都市政策研究所「横須賀市の将来推計人口(平成26年5月推計)」より作成)

横須賀市の死亡数の推計



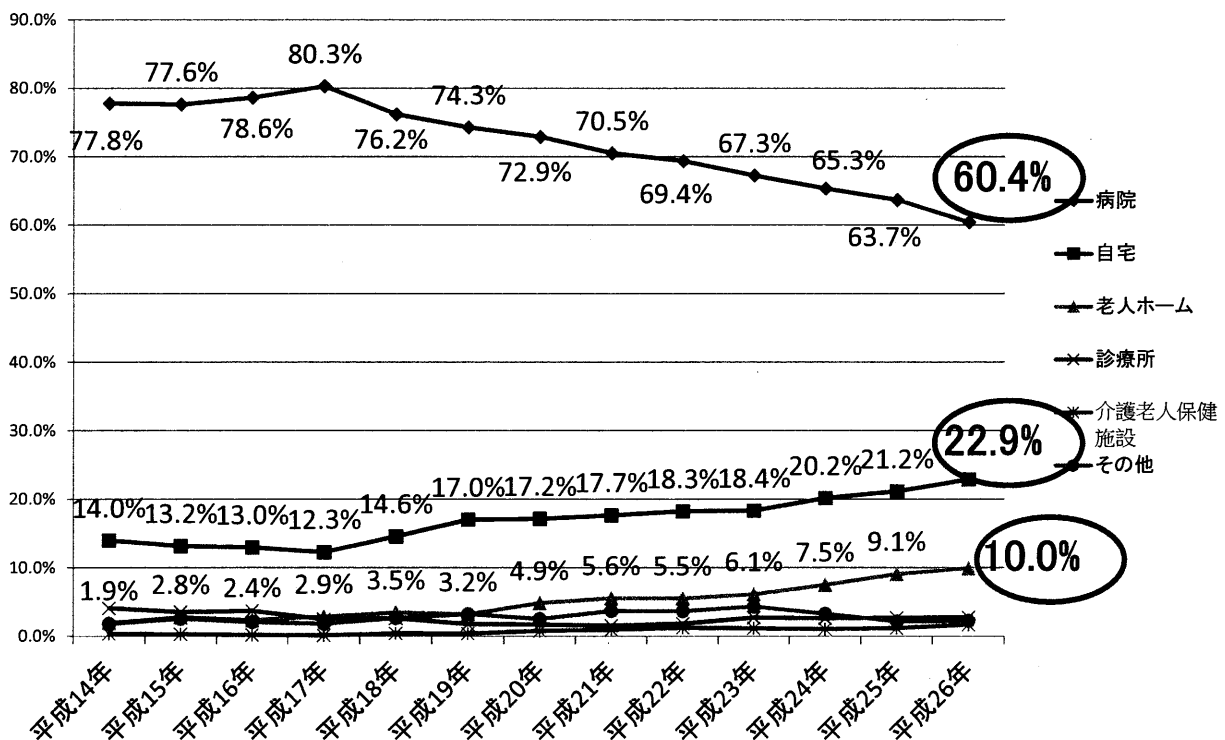
資料：横須賀市都市政策研究所「横須賀市の将来推計人口(平成26年5月推計)」をもとに、出生と死亡だけの要因で人口が変化すると仮定した推計方法により算出した参考値

横須賀市の死亡場所別 死亡数の推移

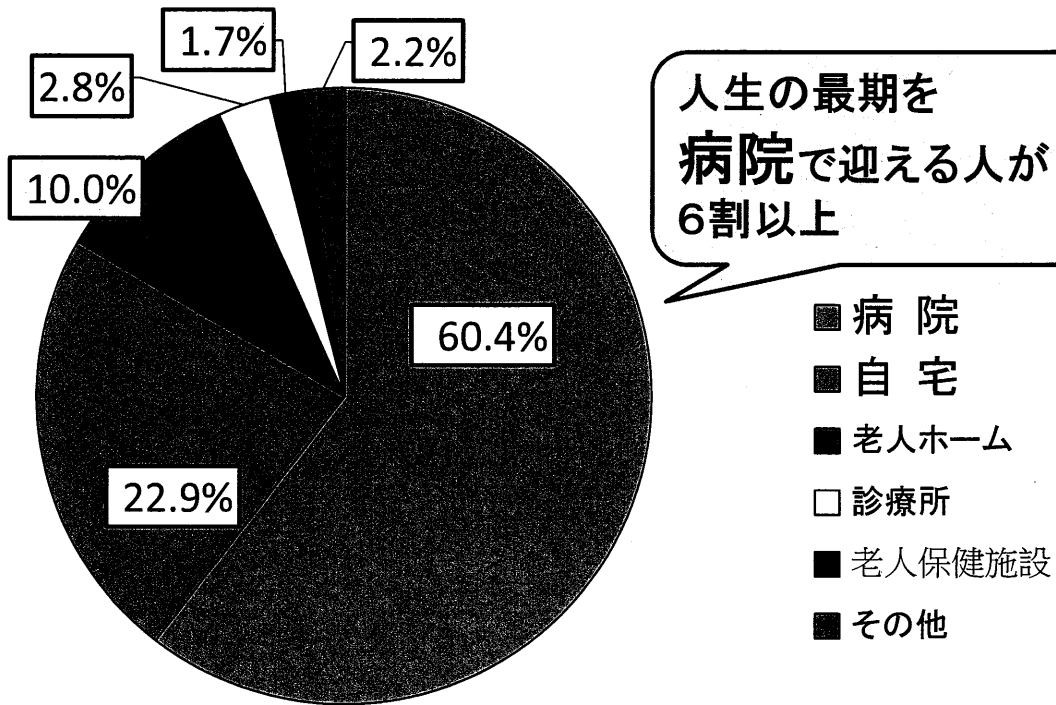


(「人口動態統計」より横須賀市健康部地域医療推進課作成)

横須賀市の、死亡場所構成比の推移



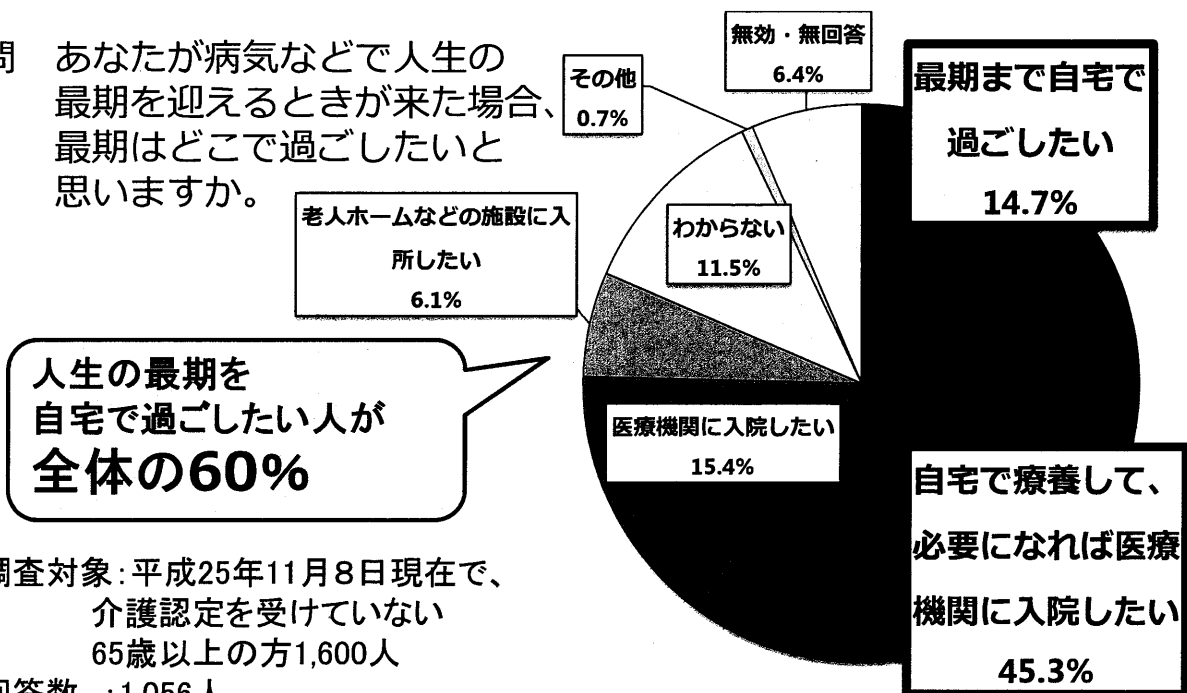
横須賀市の死亡場所の構成比



(「平成26年人口動態統計」より横須賀市健康部地域医療推進課作成)

人生の最期を過ごしたい場所の構成比

問 あなたが病気などで人生の最期を迎えるときが来た場合、最期はどこで過ごしたいと思いますか。



調査対象：平成25年11月8日現在で、介護認定を受けていない65歳以上の方1,600人

回答数：1,056人

(平成25年11月 横須賀市福祉部介護保険課実施「横須賀市高齢者福祉に関するアンケート」)

横須賀のデータから見えた課題

- 人口は減少するが、高齢者数は増加する。
2025年 高齢化率:約32% 75歳以上:約20%
- それに伴い、年間死亡者数も増加する。
2025年 年間死亡者数:約5900人(1300人増)
- 病院の看取り数は増えていない。
- 多くの市民が、実は、在宅での療養や看取りを希望していると推測される。(約60%)
- 現実には、60%の市民が病院で死亡している。



在宅での療養や看取りを希望する市民は多い。
在宅での看取りが増加すると予想される。
在宅で看取れる体制を作らなければならない。

8

ポイント 1

自治体の各種データを整理する

- ※ さまざまな団体と共通認識を持つためにも、客観的なデータが必要です。
- ※ データを示すと納得性も高くなります。
- ※ もちろん市民への説明にも役に立ちます。



既存データや他部課の持つデータを活用しましょう
国勢調査や人口動態のデータ
政策部門が行う人口推計等のデータ
市民アンケートの実施データ

9

横須賀市が目指す方向

住み慣れた我が家で療養したいという方が、在宅での療養・さらには看取りという選択ができるように地域医療の体制づくりを進める



平成23年度から
在宅療養の体制づくりに着手

当時、問題となっていたこと

がん患者さんが退院して自宅に帰ってから途方に暮れる…

そのようなケースが増えていた。

退院後にも安心できるような体制づくりが必要ではないか？



10

スタートの平成23年度

まず、取り組んだのは・・・在宅療養推進のための多職種連携

でも、その前に・・・医療・福祉関係者への再ヒアリング

もう一度、何が課題かと聞いた。

⇒ キーワードは連携だった。

⇒ この時、私たち行政職は多職種のみなさんの思いを知った。

⇒ 多職種が同じテーブルについて相互理解を深める重要性を感じた。

⇒ 全員が在宅療養連携会議への参加を承諾してくれた。

1 在宅療養連携会議の発足

- ・在宅療養の体制づくりに取り組むという自治体の想いを伝える
- ・会議は医療関係者・福祉関係者・行政職員 合計11人でスタート
- ・医師会副会長を座長に依頼⇒横須賀市医師会とのパイプ
- ・会議開催は年間4回（予定は3回） 時間帯は平日午後

2 在宅療養シンポジウムの開催

- ・市民対象 年1回開催 基調講演+パネルディスカッション

11

ポイント 2

関係団体には個別に当たって本音を聴く
各団体のキーパーソンを味方につける

- ※ 各団体が課題と感じていることをきちんと聴いて受けとめることが大事です。
- ※ 市町村が何を目指し、どうしたいのか、そのためには多職種の協力が必要だという行政の本気の想いをきちんと伝えることも大事です。



キーパーソンは必ずいます。
徐々に味方を増やし、一緒に前に進むという雰囲気を作っていきます。

12

在宅療養連携会議の機能

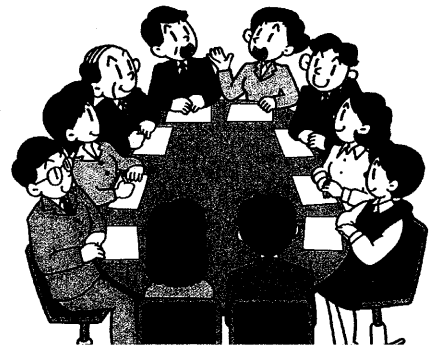
- 目的① 市民が地域において安心して在宅療養生活を送れるよう、現場における医療関係者、福祉関係者等の連携を深め、関係機関のネットワークを構築する。
- 目的② 医療・福祉の地域連携を推進するための具体的方法について検討し、連携システムを構築する。

- 在宅療養現場における課題の抽出
- 課題解決策の検討及び具体化
- 検討された具体策の実施及び検証

横須賀市



横須賀市医師会



医師会のキーパーソンは医師会長にご紹介いただきました

13

検討された課題と解決策の例

課題：在宅療養についての市民の理解が必要

解決策⇒シンポジウム、出前トーク、啓発冊子の作成

課題：在宅療養を支える職種が連携できていない

解決策⇒多職種合同研修会、エチケット集の作成

課題：在宅医が不足する

解決策⇒在宅医を増やすための仕組みづくり

課題：医療、介護人材の育成やスキルアップが必要

解決策⇒介護職向け研修、病院職員向けセミナー

課題：自宅の準備もできないうちに退院してしまう

解決策⇒退院調整のチェックリスト作成

14

初年度に実施できたのは

1 多職種連携と課題解決への第一歩として

在宅療養連携会議の発足と4回の会議

2 市民啓発事業第一弾として

在宅療養シンポジウムの開催 1回

内容：基調講演＋パネルディスカッション

予算が少なくても、

ノウハウが蓄積されていなくても

今、できることをやる。

15

飛躍の平成24年度

在宅療養連携会議の飛躍

- ① メンバーの拡大 11名⇒15名へ (27年度は18名に)
 - ・医療関係 8 : 医師会 2、歯科医師会、薬剤師会、病院医師、病院MSW、病院事務、訪問看護師
 - ・介護関係 4 : 老健施設、ケアマネ、ヘルパー、地域包括支援センター
 - ・行政職員 3 : 福祉部高齢福祉課・介護保険課、健康部地域医療推進課
- ② 会議の時間帯を昼から夜へ
 - ・欠席者が激減
- ③ ワーキングチーム(専門部会)の設置
 - ・広報啓発検討WT、連携手法検討WT、研修・セミナー検討WT
 - ・ワーキングで解決策の具体化を検討、事業を企画
 - ・みんなが自分たちの事業だという意識を持ってくれた
 - ・事業運営にも積極的に参加

厚生労働省 在宅医療連携拠点の誕生と3者連携

16

ポイント 3

職員も一緒にがんばる覚悟を決める

- ※ 一緒に連携してくれる多職種は、それぞれが仕事をもっています。
- ※ 在宅医療・介護連携推進にかかわってくれる多職種は、ボランティアで参加してくれる人が多いことを忘れてはいけません。



市町村の考え方にもよりますが、本市は夜の時間帯を活用したことが、プラスに働きました。残業対応になるけれど、それには覚悟が必要です。

17

多職種合同研修会の開催 すみずみまでのネットワークづくり

グループワークを中心とした参加型の研修

多職種のネットワーク・顔の見える関係構築を目指す

平成24年度実施テーマ 「在宅療養、何が課題？」
「退院時の在宅療養連携」
「横須賀市における在宅療養の将来」

平成25年度実施テーマ 「独居者の在宅療養」

平成26年度実施テーマ 「多職種連携に必要なエチケットやルール」

⇒在宅療養連携推進「よこすかエチケット集」に結実

ケアマネジャー・ヘルパー対象研修の開始

- ・多くの介護職が、医師や訪問看護師など医療職に対して、敷居の高さを感じている。
- ・原因として、医療的な知識の不足が考えられ、在宅医療に関する基礎的な医療知識の習得を目的とした研修を開始。

18

まちづくり出前トークの開始

市職員が町内会等に出向き、終末期医療などについてトーク、市民が在宅療養について考えるきっかけづくりをする。

テーマ ①最期の医療あなたはどうしますか
②上手な医者のかかりかた

実績累計 約50団体 2,000人の参加



開業医向け在宅医療セミナーを開始

対象：ターゲットは開業医

訪問診療を行う診療所を増やすことを目的として、在宅医療ニーズの高まりや、在宅診療の実際について理解を深める研修を実施

講師 平成24年度 東京大学特任教授 辻 哲夫 氏

テーマ：患者に寄り添う在宅医療の将来性—患者が外来に来られなくなる日—

- ・その後も毎年1回開催
- ・予算は市で用意するが、市と医師会の両者が主催

19

退院前カンファレンス シートの作成

※スムーズなカンファレンス

※必要な情報が漏れなく伝わる

※新人看護師教育にも有効

※病院・在宅スタッフ
在宅支援多職種スタッフ
相互の情報共有に役立つ

在宅療養連携会議
連携手法検討専門部会が
企画・検討・作成。
横須賀市が発行・配布・周知。

横須賀市HPからダウンロードできます。

様 退院前カンファレンス	
病院	病棟
年 月 日	
司会:ケアマネジャー/MSW/退院調整 Ns など適宜	⑨ 介護指導の内容と計画 □介護方法・介助方法は習得できているか
★自己紹介 2分(時間は目安です)	⑩ 定時薬と頓用薬 □必要な定時薬・頓用薬は処方されたか
1. 現在までの経過と治療(病棟主治医または看護師が説明。記載する必要はない) 2分	3. 本人・家族の希望と心配 3分
2. 入院中のADLとケア (看護師が説明。記載する必要はない) 5分 ① 移動と移乗、入院中のリハビリテーション	4. 質疑 5分
② 食事の内容と食事介助の方法	5. ケアプランの説明(ケアマネジャー) 5分
③ 排泄	6. ケアの調整 5分 退院日 □退院後に利用する医療・介護の事業所は退院日を知っているか
④ 寝具と体位交換、皮膚トラブルの有無	退院後の日程
⑤ 入院中の入浴・保清の方法と頻度	緊急連絡先や方法 □患者や家族は体調が変わった時の緊急連絡先を知っているか □診療情報提供書と看護サマリーを用意したか
⑥ 睡眠・更衣・口腔ケア・その他	7. まとめ 2分
⑦ 認知機能・精神面	
⑧ 行なっている医療処置 □必要な医療器具・福祉機器はあるか。また、使い方は習得できているか □自宅に帰ってから使用する消耗品などはあるか	

動機づけ多職種連携研修を開始

- 東京大学高齢社会総合研究機構が開発したプログラムを活用した研修
主催 横須賀市医師会、横須賀市
後援 国立長寿医療研究センター
協力 東京大学 高齢社会総合研究機構
講師 主として横須賀市医師会の医師のみなさん
- 任意参加ではなく、在宅療養に係わる職能団体を共催団体とし、その推薦を受けた者を受講者に指定する点が、他の研修と大きく異なっている

病院職員向け在宅医療出前セミナーを開始

- 対象：病院職員
⇒病院の先生が、自宅へ帰った患者の生活をイメージできるようになって欲しい！
- 市内の病院を会場とする出前方式。講師は市内の在宅医
テーマ：病院から在宅へ
—それはキュアからケアへのパラダイムシフト

在宅医同行研修を開始

- ベテラン在宅医が指導医となり、在宅医療の現場を経験してもらう
- 対象：開業医、病院勤務医
 - 在宅医療に興味がある。在宅医療現場を体験したい。
 - 在宅医療を手掛けているが、他の医師の訪問診療をみてみたい。

市民啓発用 在宅療養ガイドブックの作成

- 市民が、在宅療養や在看取りについて考えるきっかけとなるよう作成

横須賀市HPからダウンロードできます
「横須賀市在宅療養ガイドブック」で検索！
是非、ごらんください

最期までおうちで暮らそう



24

深化の平成26年度

1 市民啓発の強化

- ①在宅医療に対応する医療機関を市民に公開
- ②在宅療養ガイドブックの配布開始
- ③広報よこすか平成26年9月号

在宅療養・在宅看取りの特集記事を掲載

2 拠点活動の活性化

- ①ブロック内多職種合同研修会開催
- ②在宅医協力体制づくり に着手
- ③在宅患者入院支援登録システムの稼働



etc.etc....

3 そして多職種連携のためのエチケット集作成に着手

※これまでの取り組みを深化させつつ継続する！

横須賀 市民便利帳
(全戸配布)

市のホームページでも情報提供しています

医療機関名	在宅	所在地	電話番号	備考
櫻形外科	在	坂本5	826-8811	
大畑	在	坂4-5	826-8811	
鶴が	在	鶴が3-2	826-8811	
聖王病院		緑が丘地	826-8811	
中村整形外科		本23	826-8811	
山崎クリニック	在	小川1 ハイツ1F	826-8811	内小
横クリニック		小4-4	826-8811	透
神奈川歯科大学 付属病院		稲岡町地	826-8811	
湘科医院	在	出町	826-8811	内納

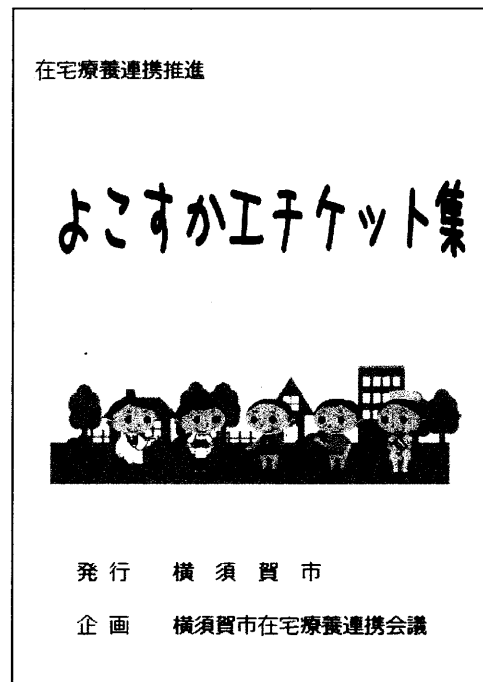
在=在宅医療の実施医療機関
(医療機関によってお引き受けできる条件が異なりますので、必ず事前にご相談ください。)



26年度の代表的な事業

在宅療養連携推進「よこすかエチケット集」

- 在宅療養連携会議 連携手法検討専門部会が、横須賀の医療と介護の連携がよりスムーズに行われるよう、多職種がお互いに気をつけるべきマナーやエチケットを明文化した。
- 平成26年度の多職種合同研修会で出された意見をもとに約1年を要して23項目からなるエチケット集が完成。
- 175人の研修会参加者、作成ワーキングに参加した17人のボランティア、6人の専門部会員と多くの職種がかかわって完成したプロセスそのものが大きな財産。
- この取り組みは、日本在宅医学会もりおか大会で優秀賞受賞。



横須賀市HPからダウンロードできます
「よこすかエチケット」で検索！
是非、見てください

患者と家族を支える多くの専門職



28

ふつふつと広がってゆく多職種連携 市内で見え始めた変化



さまざまな団体が独自に多職種連携の取り組みを展開し始めた!!

- ※ 横須賀市医師会が「在宅医療委員会」を設置
- ※ 訪看協議会とヘルパー協議会が合同研修会実施
- ※ ケアマネ協議会が市内病院MSWと一緒に研修会
- ※ 地域包括が地域内診療所を中心に多職種研修会
- ※ 医師会主催の研修会への多職種参加数が増加
- ※ 病院が地域包括と協働で多職種研修会を実施
- ※ 歯科医師会に在宅歯科医療推進のための地域連携室設置
- ※ 横須賀地区栄養士連絡協議会も多職種連携に積極的参加
- ※ 理学療法士会横須賀・三浦ブロックも参加希望を表明
- ※ 歯科衛生士会横須賀支部で在宅療養連携の研修を企画

地域が動く…横須賀では、今、それが実感できる

29

ポイント 5

多職種が声をかけてくれたら、参加する

- ※ さまざまな職種が全体の動きに呼応するように、独自の動きを始めたら、しめたものです。
- ※ 声をかけてくれるのは、行政にも自分たちの動きを知って欲しいと思っているからです。行政も応援してくれているというお墨付きも求めているかもしれません。



呼んでくれたらできる限り参加しましょう。
多職種との信頼関係もより深まります。
なにより「地域が動く」…これを実感できます。

30

継続の平成27年度

- 1 地域包括ケアシステムの構築に向けて
 - ①「在宅医療・介護連携推進事業」は介護保険の地域支援事業に位置づけられた。
 - ②「在宅医療・介護連携推進事業」の取り組むべき項目として、(ア)～(ク)の8項目が示された。
 - ③全国すべての市区町村で平成30年度までに8項目の取り組みを開始することが義務付けられた。
 - ④一方、すべての市区町村は、介護予防・日常生活支援の総合事業にも同時に取り組むこととなった。
- 2 横須賀市の場合
 - ①「在宅医療・介護連携推進事業」は、健康部地域医療推進課が、これまでの実績を踏まえ、事業を継続する。
 - ②「介護予防・日常生活支援の総合事業」は、福祉部高齢福祉課が取り組みスタート。

31

主な会議等の開催回数

名称	平日昼間	平日夜間	土日	計
在宅療養連携会議		16		16
在宅療養ブロック会議・ブロック拠点		32		32
在宅療養センター連携拠点 情報交換会等		8		8
多職種合同研修会		1		1
ケアマネジャー・ヘルパー対象研修		6	1	
動機づけ多職種連携研修			1	1
開業医向け在宅医療セミナー		1		1
病院職員向け在宅医療セミナー		3		3
在宅療養シンポジウム			1	1
まちづくり出前トーク	8		3	11
在宅医療・介護連携に関する庁内連絡会	4			
関係市区町村の情報交換	3			3
がん患者団体との会合		4		4
医療・介護関係団体主催研修等		12		
医師会 在宅医療委員会等		5	3	
	15	88	9	112

※上記のほか、講演・視察・取材・原稿依頼 年間40回超

32

横須賀市の取り組み事業

在宅医療・介護連携推進事業8項目対応一覧①

取り組み項目	取り組み状況
(ア) 地域の医療・介護の資源の把握	市民便利帳に在宅医療に対応する医療機関を掲載
	市のHPに在宅医療に対応する医療機関を掲載
(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	在宅療養連携会議
(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進	ブロック連携拠点で在宅医相互協力体制構築
	センター連携拠点で在宅患者病院登録制度構築
(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援	退院調整ルールづくり・退院前カンファレンスシート作成
	在宅療養推進「よこすかエチケット集」
	在宅患者の情報共有システムの導入
(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援	在宅療養ブロック連携拠点に相談窓口設置

33

横須賀市の取り組み事業 在宅医療・介護連携推進事業8項目対応一覧②

取組み項目	取組み状況
(カ) 医療・介護関係者の研修	多職種合同研修会
	ケアマネジャー・ヘルパー対象研修
	動機づけ多職種連携研修
	開業医向け在宅医療セミナー
	病院職員向け在宅医療セミナー
	在宅医同行研修
(キ) 地域住民への普及啓発	在宅療養シンポジウム
	まちづくり出前トーク
	在宅療養ガイドブック
	広報紙に在宅療養・在宅看取りの特集記事を掲載
(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	横須賀・三浦二次医療圏4市1町情報交換会の開催

34

現時点での在宅医療・介護連携推進事業 取組み状況自己評価

取組み項目	自己評価
(ア) 地域の医療・介護の資源の把握	△
(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	○
(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進	▲
(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援	▲
(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援	▲
(カ) 医療・介護関係者の研修	○
(キ) 地域住民への普及啓発	○
(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	▲

○=かなり力を入れてきた △=まだちょっと足りないな ▲=こりゃ、まだまだ道半ば

取組みが早かったため、大半の項目に着手しているが、まだ成果が出ていない項目も多い。これまでの取組みに満足せず、医療・介護関係者そして市民のみなさまと共に歩を進める。³⁵

新たな取り組み 平成28年度

1 それでも現場の連携むずかしい！

①「退院調整ルールづくり」に取り組みます

市内全11病院の退院調整担当者と在宅で支援する職種（ケアマネ・地域包括・訪問看護師など）が参加して、退院調整にフォーカスしたマナー・エチケット・ルールについて検討します。

②「サービス担当者会議のルールづくり」に取り組みます

退院後に患者・利用者と家族を支えるサービス担当者会議のルールづくりを検討します。

2 市民啓発のためのさらなる取り組み

①「在宅療養ガイドブック第2弾」は、ショートステイやデイサービスなど施設を上手に利用しながら在宅療養を継続する方法を紹介する啓発冊子を作成します。

②「横須賀版リビングウィル」の作成について検討します。

36

横須賀で医療・介護連携が進んだキーワード

お 想いを伝える

も 目標を共有する

て 出来ることから始める

な 何も正解はないと知る

し 市(横須賀市)はコーディネーター

それでも、まだ、
道半ば

この5年間 行政も医師会も多職種もみんなが協力して取り組んできた結果がここに 있습니다

37

患者と家族を支える多くの人々



38

ずっと、この街で暮らしたい

横須賀市民は定住意識が高い

「横須賀市に住み続けたい」という市民は8割以上
(平成26年度基本計画重点プログラム 市民アンケート結果)

この街で最期まで暮らしたい・・・

やがて私たちも支えを必要とする時がきます

在宅看取りを

地域の文化に・・・

ご清聴ありがとうございました



39